



FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第49号 2013.6.4

FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

十和田農場から

マンクスロフタンが生まれました！

昨年の11月に日本獣医生命科学大学富士アニマルファームからやってきたマンクスロフタンのお母さんたちが、無事元気な子羊たちを分娩しました。

1頭目は3月15日に2頭(♂1 ♀1)を分娩しました。2頭目は3月24日に1頭(♂)を分娩しました。どちらも安産で、夜中のうちに分娩を終わらせ、朝様子を見に行くと子マンクスたちがぴょんぴょんと飛び跳ねていました。

1頭目の双子は約2.5 kg、2頭目のオスは約3.0 kgと、親の体格の割に丈夫な子供たちが生まれました。見た感じ、サフォークの赤ちゃんより大人びた顔つきをしています。驚くべきは、角です。生まれて3日後にはオスの角が生えてきました。1か月经った今ではもはや5 cm以上角が伸びています。見る見るうちに伸びてきました。オスは最高6本の角が生えるといわれているマンクスロフタン。まだ、3本目の角は生えてきていませんが、今後は体の成長とともに角の成長も見守っていきたいと思います。



八雲牧場から

八雲町異業種交流会に参加

2月27日に八雲町内で行われた異業種交流会に、寶示戸センター長、小笠原助教、小野係長、折目が参加しました。八雲町内のさまざまな職業の方々と交流を持つことにより、いろいろなコラボ企画が生まれると良いと思います。

久保田博昭主任十和田農場へ異動

入職されて34年間八雲牧場を支えてきて下さった、久保田博昭主任が平成25年4月1日付けで十和田農場へ異動されることとなりました。

牛のことに限らずいろいろな動物や昆虫などに大変詳しく、また、八雲町内の飲食店情報にも詳しく、我々後輩を連れて行って下さった久保田主任でした。入職当初はSPF鶏舎の管理を携わり、その後牧場の牛の管理に移られました。八雲牧場では、他の人の作業に目を配らせて作業を円滑に行うための潤滑剤のような役割を担い、人の嫌がるような仕事も率先して行っていただきました。

十和田農場に移られても、同じFSCの職員でありますので今後とも八雲牧場へのご指導をお願いしたいと思います。



新研究棟が完成

今年度は、八雲牧場における教育研究の強化元年という一年でした。大学院生も3人（一人は今年修士課程を無事修了しました！！）在籍し、八雲牧場での研究活動が活発に行われました。今まで八雲牧場ではなかなかオンサイトの研究ができず、青森県十和田市の獣医学部や、他大学に出向き、実験機器をお借りして分析などを行ってききました。今年度、八雲牧場にある施設の一部を改修して、北里八雲牛を科学的に解明するために八雲牧場に新実験棟をつくる構想が立ち上がり、年度末には、施設も改修され、いろいろな実験機器が導入されてきました。左から二枚の写真は遺伝子発現解析や顕微鏡で筋肉の微細構造を見ることができる実験室です。その他に土壌・草地実験室もあります。



日本畜産学会第 116 回大会

3 月 29～30 日に広島で開催された日本畜産学会第 116 回大会で、大学院生二人と小笠原助教が北里八雲牛についての研究発表をしてきました。大学院生二人は初めての学会発表で準備から発表まで慌ただしい日々を送っていましたが、いざ本番となると落ち着いた丁寧な発表が出来たそうです。二人の発表内容は「哺乳期の北里八雲牛の内臓組織特性と骨格筋特性」、小笠原助教は放牧が骨格筋（牛肉）にどのような影響を与えるのかというテーマで発表しました。今後も放牧で育った北里八雲牛の特性を明らかにしていきたいと思います。

大学院生二人の学会発表の感想を記します。

修士 2 年 小林美里さん

日本畜産学会という大きな場での発表を経験することができ、学ぶことの多い学会でした。

自分の研究を見つめ直す良い機会にもなりました。あと一年、より一層頑張ります。よろしくお願ひ致します。

修士 2 年 岡田海渡さん

先日、広島で行われた日本畜産学会に参加してきました。

今回の学会準備で皆様方のご協力、ご支援のもと無事発表を終えることができました。ありがとうございました。この経験を活かし、今後も感謝の気持ちを忘れずに少しずつ成長していこうと思いますので、よろしくお願ひ致します。



(編集担当：畔柳 正)